

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

LABIO 21 総索引

〈No.25～No.48〉



Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

25
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【特集】 動物実験ガイドラインの策定
【研究最前線】 免疫抑制剤を使用しないサルの腎臓移植
【研究最前線】 商業実用種を用いた遺伝的脆弱ノックアウト法の開発と応用

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

26
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【特集】 「実験動物と遺伝法規について」
【研究最前線】 動物実験施設センター
【研究最前線】 モデルマウスSjLb糖尿病のエピソード

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

27
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【特集】 「動物実験の適正化に関する取り組み」
【研究最前線】 「サル」の感染症について - 経口 -

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

28
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【特集】 「動物協の実験動物福祉推進部設計等が決定されました」
【トピックス】 「狂犬病」の再発生で思うこと

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

29
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【特集】 福祉法の一環策定：飼育等の管理体制の観点について
【研究最前線】 SCAWのその後分譲
【研究最前線】 動物協のバイオインテグレーションによる動物の健康および環境に関する委員会発足の経緯とその活動

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

30
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【特集】 「ICLAS」のミッションと動物協の役割
【研究最前線】 FELASA-ICLAS 合同会議に出席して
「平成20年度から実験動物技術者認定制度が一部変わります」

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

31
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【研究最前線】 ノックアウトマウスを用いた胎芽着床の「目」の可視化
【研究最前線】 動物実験施設センター
【研究最前線】 ポリオウイルスセブテッドランゲムニクマウス
【実験動物技術者認定制度はどうか】

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

32
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【特集】 経営セミナーフォーラム 2008
「動物実験の自主管理 - 実践から出てきた課題と対応 -」
「機関内規程の効率的・効果的運用」

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

33
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【特集】 経営セミナーフォーラム 2008
「総合大学における動物実験計画書の普及 - 京都大学を例にして -」
「東京大学における飼育内規程の運用」
【研究最前線】 白鼠協「実験動物生産施設設備調査」の経緯

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

34
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【トピックス】 「実験動物施設における災害対応(危機管理)について」
【研究最前線】 「国内存在動物新種の選別」

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

35
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【特集】 「実験動物・動物実験の評価 - 検証への取り組み」

Japanese Society for Laboratory Animal Resources

LABIO 21

36
OCT 2008

◆ 財団法人実験動物協会
TEL 03-5864-8750 Fax 03-5864-8838
http://www.jalpa.or.jp/ E-mail: info@jalpa.or.jp

【特集】 「経営セミナーフォーラム 2009」
「教育セミナーフォーラム」
【研究最前線】 「近交系動物：なぜ20回以上の兄妹交配が必要なのかな？」

NO. 25

平成18年(2006)7月1日発行

巻頭言

「(社)日本実験動物学会の理事長に就任して」
—— 芹川 忠夫 : 4

特集

「動物実験ガイドラインが策定されました」
—— 鍵山 直子 : 5-8

疾患モデル動物開発エピソード⑩

「毒素受容体を用いた標的細胞ノックアウト法の開発と応用(マウス)」 —— 河野 憲二 斉藤 美知子 : 9-12

トピックス

「老化促進マウスにおける慢性喫煙曝露に伴う肺気腫発症の抗酸化剤投与による予防効果」
—— 笠木 聡・瀬山 邦明 : 13-18

連載記事

犬の皮膚疾患⑤「外部寄生虫による犬の皮膚病」
—— 猪熊 壽 : 19-24

ホットコーナー

「実験動物福祉調査の実施状況」
—— 八神 健一 : 25-26

研究最前線

「免疫抑制剤を使用しないサルの腎臓移植」
—— 場集田 寿・奥村 康 : 27-31

海外散歩

「バイオポリスでの研究紀行」 —— 江口 直美 : 32-34

海外技術情報

・実験動物の人道的な安楽死について

La-house

「モニタリング研修の質問」 —— 高倉 彰 : 37

学会の動き

技術者協会の動き

ほんのひとりごと

協会からのお知らせ「実験動物技術師」の名称変更について

協会だより

KAZE —— 山田 章雄 : 42

NO. 26

平成18年(2006)10月1日発行

巻頭言

「第40回日本実験動物技術者協会総会開催に向けて」
—— 坂本 雄二 : 4

特集

「実験動物種と関連法規について」
(表1 法令等と規制対象生物の対比表 別添)
—— 尾崎 明・鍵山 直子 : 5-10

ホットコーナー

「ICLASとは」 —— 伊藤 豊志雄 : 11-13

研究最前線

「幹細胞生物学の循環器医学への治療応用」
—— 伊井 正明・浅原 孝之 : 14-22

海外散歩

「オーストラリア」 —— 竹田 和由 : 23-24

疾患モデル動物開発エピソード⑪

「認知症(痴呆)モデルマウスSJLB開発のエピソード」
—— 谷口 泰造 : 25-29

ラボテック

「医薬品開発分野におけるブタの将来性」
—— 狩野 真由美 : 30-33

「光を用いたin vivo imagingについて」

—— 渡邊 重明 : 34-37

海外技術情報

・14系統のマウスにおける視覚の検出、パターン認識および視力

・疾患モデルとしてよく用いられる14系統の近交系マウスにみられる行動学的相違

・空気汚染源としての実験動物の床敷

・3系統の若齢近交系マウスにおける飼育密度とケージ床面積の影響

・蛍光スクリーナーゼPCR法による*Mycoplasma pulmonis*の検出

・雄ユカタンミニブタにおける非侵襲的な体脂肪率の測定

La-house

「モニタリング研修の質問」 —— 高倉 彰 : 41

学会の動き

技術者協会の動き

ほんのひとりごと

個人情報について

「社団法人日本実験動物協会 個人情報保護方針」

協会だより

KAZE —— 河野 公雄 : 46

NO. 27

平成19年(2007)1月1日発行

巻頭言

「新年を迎えて—実験動物技術者の資質向上を目指す—」
—— 後藤 信男 : 4

特集 動物実験の適正化に関する取り組み

「動物実験等の適正管理に関する国動協の取り組み」
—— 八神 健一 : 5-7

「動物実験の適正化に関する公私動協としての取り組み」
—— 片平 清昭 : 7-10

「動物実験の適正化に関する製薬協の取り組みについて」
—— 務台 衛 : 11-12

連載シリーズ①

「サルの感染症について—総論—」 —— 山田 靖子 : 13-16

トピックス

「実験動物の麻酔の基礎と問題」 —— 倉林 謙 : 17-21

研究最前線

「ミオシン Iファミリーによるショウジョウバエの左右性の制御機構」

————— 谷口 喜一郎・穂積 俊矢・前田 礼男・松野 健治：22-26

海外散歩

「韓国 濟州島」 ————— 三枝 順三：27-29

特集

「内外のマウスバンクの最近の動向と増え続ける遺伝子改変マウスの凍結胚・精子の輸送について」

————— 中潟 直己：30-32

ラボテック

「動物用NMR (MRIとMRS) の現状」

————— 黒田 幸夫：33-35

「実験動物における CT (Computed Tomography) について」 — GEヘルスケアバイオサイエンス(株)：36-38

慰霊の心—実験動物の供養を通じて

————— 本田 将敬：39-40

海外技術情報

- ・マウスノロウイルス自然感染免疫不全マウスの病理
- ・2000~2003年に西欧の実験用齧歯類のスクリーニングにおいてみられたウイルス感染症、肺マイコプラズマ (*Mycoplasma pulmonis*) およびティザー菌 (*Clostridium piliforme*) の自然発生の流行
- ・実験用マウスのヘリコバクター属菌の効果的な治療に関する評価
- ・実験用ウサギの胃におけるヘリコバクター属菌の低発生頻度
- ・総説：実験動物施設における飼育環境と齧歯類の行動要求性
- ・個別換気ケージ飼育下における実験用マウスの微生物モニタリングおよび生物学的封じ込めに関する現場研究

学会の動き

技術者協会の動き

ほんのひとりごと

“速報”平成18年度実験動物技術者資格認定試験結果協会だより

KAZE ————— 櫻井 康博：46

No. 28

平成19年(2007)4月1日発行

巻頭言

「第54回日本実験動物学会総会に向けて」

————— 須藤 カツ子：5-6

「第41回日本実験動物技術者協会総会開催に向けて」

————— 小木曾 昇：7

特集

「日動協の実験動物福祉関連指針等が改定されました」

————— 鍵山 直子：8-10

研究最前線

「ヒト皮下脂肪から生まれる肝細胞の特性」

————— 落谷 孝広：11-15

トピックス

「狂犬病の再発生で思うこと」 ————— 源 宣之：16-19

疾患モデル動物開発エピソード⑫

「ライソゾーム病モデルマウスの開発」

————— 松田 潤一郎：20-25

連載シリーズ②

「サル感染症について —ズーノーシス—」

————— 棚林 清：26-29

海外散歩

「台湾 実動協・台湾実験動物交流会顛末記」

————— 柏木 利秀：30-32

研究最前線

「ラットの摘出心臓を72時間乾燥保存後蘇生させ異所性心移植に関する研究」

—— 関 邦博・吉田 優・畑山 直之・関野 一：33-39

海外技術情報

- ・遺伝子改変マウスのための福祉評価法
- ・ゼブラフィッシュ (*Danio rerio*) の血液検査値および血清生化学値
- ・研究施設で飼育されているゼブラフィッシュ (*Danio rerio*) によくみられる微胞子虫 *Pseudoloma neurophilia* のPCR法による検出
- ・捕獲マカク属サル類 (*Macaca fuscata*, *M. mulatta*, *M. fascicularis*) における抗Bウイルス抗体価の変化

LA-house

「モニタリング研修の質問」 ————— 高倉 彰：42

学会の動き

技術者協会の動き

ほんのひとりごと

“速報”平成18年度実験動物一級技術者資格認定実地試験結果

協会だより

KAZE ————— 日柳 政彦：46

No. 29

平成19年(2007)7月1日発行

巻頭言

「プロバイオティクス研究と動物実験」 — 古賀 泰裕：4

特集

「感染症法の一部改正：病原体等の管理体制の確立について」

————— 三木 朗：5-11

「公衆衛生対策の一環として獣医師が届出を行う感染症と動物について」 ————— 高橋 幸子：12-14

ホットコーナー

「カエルツボカビ」 ——— 宇根 有美・黒木 俊郎：15-20

連載シリーズ③

「サル感染症について —実験用サルコロニーのウイルス学的管理—」 ————— 藤本 浩二：21-25

海外散歩

「ソルトレイクシティ」 ————— 大和田 一雄：26-27

ラボテック

「ハイポックウォーター（弱酸性次亜塩素酸水）生成装置
ハイクリーンⅡとは」 ————— 種田 浩次：28-30

「実験動物管理システム」 ————— 新名谷 典朗：31-34

海外技術情報

- ・動物福祉のためのサイエンティストセンターによる動物の管理および使用に関する委員会を効果的に運営するための勧告
- ・マウスは同種他個体の痛みを共感することができるか？
- ・ビーグル犬の心電図：基準値ならびに性別、遺伝的背景、体位、心拍数の影響
- ・ワタボウシタマリン (*Saguinus oedipus*) における自然発症ティザー病

LA-house

「モニタリング研修の質問」 ————— 高倉 彰：41

学会の動き

技術者協会の動き

協同組合の動き

LABIO21 別冊「犬の皮膚疾患」が発行される

ほんのひとりごと

協会だより

KAZE ————— 中川 真佐志：46

NO. 30

平成19年（2007）10月1日発行

巻頭言

「メチニコフ賞を受賞して」 ————— 光岡 知足：4-5

特集

「ICLAS のミッションと日動協の役割」—— 鍵山 直子：6-8

海外散歩

「イタリア」—FELASA-ICLAS 合同会議に出席して—
————— 鍵山 直子：9-11

連載シリーズ④

「サル感染症について —細菌・寄生虫感染症と
その臨床—」 ————— 小野 文子：12-16

研究最前線

「愛媛大学再生医療センターの開設とその意味するところ」
————— 東山 繁樹：17-19

トピックス

「日本実験動物学会マウス・ラット感染症対策委員会の
紹介」 ————— 伊藤 豊志雄：20-21

海外散歩

「フィリピン」—フィリピンのコウモリ採取—
————— 吉川 泰弘：22-25

ラボテック

「動物実験における人道的エンドポイント」
————— 中井 伸子：26-31

「DNA 免疫法による抗体作製」 ————— 黄 宝星：32-35

平成20年度から実験動物技術者認定制度が一部変わります ————— 大和田 一雄：36-37

アメリカおよび諸外国の実験動物教育認定制度について
————— 大和田 一雄：38-41

海外技術情報

- ・実験手技が動物実験のデータ解析および解釈に及ぼす影響：腹腔内注射の手技的な失敗に起因する実験結果における異常値およびばらつきを増大について
- ・腹腔内投与でのマウスの麻酔を目的としたプロポフォルの単独投与、ならびにフェンタニル、スフェンタニル、およびレミフェンタニルとの併用
- ・地上輸送した後のラットの新しい動物施設への順応性

LA-house

「モニタリング研修の質問」 ————— 高倉 彰：43

ほんのひとりごと

学会の動き

技術者協会の動き

協会だより

KAZE ————— 川本 英一：46

NO. 31

平成20年（2008）1月1日発行

巻頭言

「ノーベル賞とノックアウトマウス」 — 山村 研一：4-5

研究最前線

「ノックアウトマウスを用いた転写因子の生理機能解析」
————— 石井 俊輔：6-9

疾患モデル動物開発エピソード ⑬

「ポリオウイルスレセプタートランスジェニックマウス」
————— 小池 智：10-13

トピックス

「メタボリックシンドロームと脂肪肝に対する考えかた」
————— 栗原 毅：14-17

シリーズ連載 ①

「動物塚考」 —動物の墓と慰霊碑—
————— 依田 賢太郎：18-22

海外散歩

「イギリス」—MRC Harwell Mammalian Genetics
Unit訪問記 ————— 榊屋 啓志：23-25

トピックス

「わが国のマウス・ラット動物実験施設の微生物汚染の
現状」 ————— 高倉 彰：26-28

「2002 ~ 2006 年のマウスとラットの微生物モニタリ
ングにおける陽性率、特にSPF と SPF 以外との比較」
————— 岡島 泰夫・齋藤 學・久保村 華子：29-31

ラボテック

「実験動物としてのシバヤギ」 ————— 眞鍋 昇：32-35

実験動物技術者認定制度はどう変わるの？ Q&A

実験動物技術者受験資格特例認定校一覧

平成19年度の実験動物指技術導員の認定

海外技術情報

- ・PCR 法を用いたマウス配偶子、胚および卵巣組織におけるマウスパルボウイルスの検出

- ・汚染床敷移入によるマウスパルボウイルスおよびマウス肝炎ウイルス検出の信頼性
- ・実験用マウスの遺伝子型判別に用いられる各種組織生検法の比較分析および生理学的影響
- ・近交系ラット系統間における麻酔薬および鎮痛薬に対する反応の差異

学会の動き

技術者協会の動き

ほんのひとりごと

「平成19年度実験動物技術者資格認定試験結果」

協会だより

KAZE _____ 大島 誠之助：46

- ・マウスにおける断頭、頸椎脱臼、塩化カリウム注射および二酸化炭素吸入後における大脳皮質機能の消失
- ・ハロタンまたはイソフルラン麻酔後のウサギにおける下垂体-副腎皮質系、血清セロトニンおよび生化学的パラメーターの反応

学会の動き

技術者協会の動き

ほんのひとりごと

「平成19年度一級試験結果」

協会だより

KAZE _____ 木藤 実：46

NO. 32

平成20年（2008）4月1日発行

巻頭言

「日本実験動物科学技術 2008 への招待」

_____ 笠井 憲雪：4-5

「第42回実験動物技術者協会総会の開催に向けて」

_____ 井上 吉浩：6

特集 教育セミナーフォーラム 2008

「動物実験の自主管理 —実践から見えてきた課題と対応—」

_____ 吉川 泰弘：7-8

「機関内規程の効率的・効果的運用」

_____ 鍵山 直子：9-10

ホットコーナー

「日本の BSE の感染源について —代用乳の可能性—」

_____ 吉川 泰弘：11-15

シリーズ連載 ②

「動物塚考」 —動物実験と実験動物慰霊碑—

_____ 依田 賢太郎：16-19

海外散歩

「インドの実験動物事情」 _____ 伊藤 豊志雄：20-22

研究最前線

「薬物動態におけるトランスポーターの重要性」

_____ 宮島 真理・楠原 洋之：23-29

私の研究

「CYP2A6 の遺伝子多型と喫煙による発がんリスク：疫学調査から実験動物を用いた検証まで」

_____ 鎌滝 哲也：30-34

ラボテック

「マーモセットを始めよう —実験動物の吸入麻酔—」

_____ 石井 一：35-37

トピックス

「史上最大のネズミか？—南米ウルグアイで化石を発見—」

_____ 後藤 信男・井上 忠恕：39-40

海外技術情報

- ・SARS コロナウイルス感染モデルとしてのヒトアンギオテンシン変換酵素2トランスジェニックマウス
- ・疼痛に関する分子学的・細胞学的バイオマーカーの探索

NO. 33

平成20年（2008）7月1日発行

巻頭言

「社団法人日本実験動物協会会長就任のご挨拶」

_____ 福田 勝洋：4

特集 教育セミナーフォーラム 2008

「総合大学における動物実験計画書の審査—京都大学を例にして—」 _____ 芹川 忠夫：5-6

「東京大学における機関内規程の運用」

_____ 三浦 竜一：7-8

ホットコーナー

「日動協：実験動物生産施設模擬調査の総括」

_____ 八神 健一：9-13

シリーズ連載③

「動物塚考」 —食用動物慰霊碑・素材用動物慰霊碑—

_____ 依田 賢太郎：14-17

海外散歩

「エストニア」 _____ 鍵山 直子：18-19

研究最前線

「カニクイザル ES 細胞の研究展開」

_____ 細井 美彦・寺村 岳士・小野寺 勇太：20-26

オピニオン

「動物実験に対する市民の理解を得るために」

_____ 鎌山 直子：27-29

トピックス

「アジア実験動物学会第3回学術大会へのご招待」

_____ 笠井 憲雪：30

ラボテック

「マウス・ラットの吸入麻酔」

_____ 武内 利治：31-34

わが社のプロフィール

- ・株式会社ナルク
- ・株式会社サイエンス・サービス
- ・ハムリー株式会社
- ・株式会社ジャパンファームクラウン研究所

2007米国実験動物学会視察報告 —大和田 一雄：38-39

海外技術情報

- ・集団飼育や個別飼育と比較して「同一ケージ/別居飼育」が術後のマウスの回復に及ぼす影響

- ・個別飼育マウスの急性ストレス反応に及ぼす環境エンリッチメントとハンドリングの影響
- ・ウサギのペア飼育は体重増加率および血清アルカリフォスファターゼ値の分散を減少させる
- ・骨形成異常シオノグラットの後臼歯に自然発生する齧(う)歯(し)について
- ・ゲッチングミニブタの代謝症候群関連パラメーターにおける性差

LA-house

「モニタリング研修の質問」 ————— 高倉 彰 : 42

学会の動き

技術者協会の動き

ほんのひとりごと

協会だより

KAZE ————— 荒巻 正樹 : 46

海外技術情報

- ・段階希釈したマウスパルボウイルス1型汚染床敷に慢性曝露された雌マウスの感染率
- ・ブタ (Sus scrofa) における血管関連リンパ組織
- ・マウスの健康および福祉の向上: 大規模な再導出プログラムによる直接的利益
- ・テレメトリーを用いたラットの体温、自発運動、循環器機能に対するブプレノルフィンの影響の評価
- ・ブプレノルフィンが近交系ACIラットとBNラットの行動に及ぼす影響

学会の動き

技術者協会の動き

ほんのひとりごと

協会だより

KAZE ————— 椎橋 明広 : 46

NO. 34

平成20年 (2008) 10月1日発行

巻頭言

「安研協の会長に就任して」 ————— 牧 栄二 : 4

特集

「実験動物生産と動物実験を兼ねた研究機関における動物実験計画の審査」 ————— 齋藤 敏樹 : 5-6

「動物実験技術者の教育訓練」 ————— 牧野 進 : 7-8

「実験動物ブリーダーにおける教育訓練」
————— 桑原 吉史 : 9-10

トピックス

「実験動物施設における災害対応 (危機管理) について」
————— 塩見 雅志 伊藤 隆 : 11-14

私の研究

「イヌの進化について」 ————— 石黒 直隆 : 15-19

シリーズ連載④

「動物塚考」—ペットの墓・軍用動物慰霊碑—
————— 依田 賢太郎 : 20-24

海外散歩

「スイス」 ————— 前 理雄 : 25-27

研究最前線

「腸内常在菌解析研究の進展」 ————— 辨野 義己 : 28-32

ラボテック

「狂犬病の診断技術向上のためのイヌの頭部解剖手技の習得モデルと教材開発の紹介」 ————— 井上 智 : 33-35

わが社のプロフィール

- ・明治乳業株式会社
- ・株式会社アニマルケア
- ・株式会社免疫生物研究所
- ・三幸株式会社
- ・株式会社新日本科学
- ・東洋理工株式会社

平成20年度の「実験動物技術指導員」の認定

NO. 35

平成21年 (2009) 1月1日発行

巻頭言

「新年にあたって」 ————— 大野 高志 : 4

特集 「実験動物・動物実験の評価・検証への取り組み」

「日動協：第2期実験動物生産施設等福祉調査」
————— 八神 健一 : 5-8

「(財) ヒューマンサイエンス振興財団における動物実験実施施設外部評価・検証事業について」

————— 佐々木 弥生 : 9-11

「大学等における動物実験に関する相互検証プログラム」
————— 下田 耕治 : 12-15

私の研究

「イノシシ、ブタの進化について」
————— 石黒 直隆 : 16-20

海外散歩

「ラオス」 ————— 波部 重久 : 21-23

研究最前線

「コモンマーモセットのESの現状と課題」
————— 佐々木 えりか : 24-28

特集

「動物実験従事者および実験動物飼養者の教育訓練の実際」
————— 堀内 伸二 : 29

「実験動物生産者における教育訓練の実際」
————— 森村 栄一 : 30-31

ラボテック

「実験動物用飼料の現状と今後について」
————— 納谷 亮 : 32-33

米国の実験動物技術者教育に関する実情調査報告

————— 大和田 一雄 : 34-35

わが社のプロフィール

- ・ アステラスリサーチテクノロジー株式会社
- ・ 株式会社ジェー・イー・シー
- ・ 株式会社夏目製作所
- ・ 株式会社紀和実験動物研究所
- ・ 日本エスエルシー株式会社
- ・ 日本クレア株式会社

海外技術情報

- ・ C57BL/6JおよびC57BL/6Nマウス由来胚性幹細胞
- ・ マウスパルボウイルス1を実験的に感染させたC.B-17/lcr-Prkdc^{scid}マウスにおける胚移植による再導出
- ・ 不顕性感染マウスの糞便中におけるネズミコリネ菌の検出
- ・ マウス微小ウイルス：複数のマウス系統における抗体応答、ウイルス排出、およびウイルスDNAの持続
- ・ *Klebsiella oxytoca*：実験用齧歯類における日和見感染
- ・ リスザル (*Saimiri spp.*) におけるアンドロゲン耐性

学会の動き

技術者協会の動き

ほんのひとりごと

「実験動物供給の現状2008年版」の発行
平成19年度実験動物の総販売数調査結果について
協会だより
KAZE _____ 久原 孝俊：46

NO. 36

平成21年（2009）4月1日発行

巻頭言

「第56回日本実験動物学会総会に向けて」
_____ 岩倉 洋一郎：4

特集 教育セミナーフォーラム 2009

「日本実験動物協会の実験動物福祉の推進」
_____ 鍵山 直子：5-7
「実験動物生産者から見た評価制度」
_____ 外尾 亮治：8-11
「実験動物技術者認定制度の改定と今後の展望」
_____ 大和田 一雄：12-15

トピックス

「理研 RBC のマウスリソース・品揃えと品質の向上を目指して」
_____ 吉木 淳：16-18

連載記事（1）実験動物遺伝学

「近交系誕生：なぜ20回以上の兄妹交配が必要なのか？」
_____ 庫本 高志：19-21

私の研究

「独自のバイオリソースとしてのアジア産野生マウス」
_____ 森脇 和郎：22-25

ラボテック

「生命と水」 _____ 内藤 真策：26-29

海外散歩

「クロアチア、スロヴェニア」 _____ 日柳 政彦：30-33

学校紹介

「神奈川県立中央農業高等学校」

わが社のプロフィール

- ・ 東京ビジネスサービス株式会社
- ・ 日本配合飼料株式会社中央研究所
- ・ 株式会社日本医科学動物資材研究所
- ・ 三協ラボサービス株式会社
- ・ 株式会社ケー・イー・シー
- ・ 日本農産工業株式会社
- ・ 九動株式会社

海外技術情報

- ・ モルモット (*Cavia porcellus*) の着床前胚の採取および凍結保存
- ・ ヘリコバクター菌感染によるインターロイキン10欠損マウスの繁殖力低下
- ・ 遺伝性高トリグリセリド血症および遺伝性食後高トリグリセリド血症のウサギモデルの病理学的所見
- ・ イヌの血清脂質の日リズム：明暗周期と絶食の影響
- ・ 雌のビーグル犬におけるイソフルランおよび前投薬であるキシラジン/レボメサドン/フェンピプラミドを用いた反復麻酔：一般的健康状態および動物福祉に対する影響
- ・ ケタミン/キシラジンおよび二酸化炭素が雄ラット血漿中黄体形成ホルモン放出ホルモン濃度およびテストステロン濃度に及ぼす影響

LA-house

「モニタリング研修の質問」 _____ 高倉 彰：42

学会の動き

技術者協会の動き

ほんのひとりごと

協会だより

KAZE _____ 新関 治男：46

NO. 37

平成21年（2009）7月1日発行

巻頭言

「第43回日本実験動物技術者協会新潟大会開催に向けて」
_____ 上條 信一：4

特集 教育セミナーフォーラム 2009

「特例認定校の現状と対応 — 二級：高校 —」
_____ 市川 光晴：5-8
「特例認定校としての現状と試験への対応について — 二級：専門学校 —」 _____ 花輪 俊宏：9-11
「特例認定制度の現状と対応 — 一級：大学 —」
_____ 猪股 智夫：12-13

研究最前線

「生体光イメージングを用いた動物実験」
_____ 近藤 科江・平岡 真寛：14-18

疾患モデル動物開発エピソード^⑭

「ヒト薬物代謝関連遺伝子 (P450) を保持するモデル動物」 _____ 松岡 隆之：19-21

連載記事 (2) 実験動物遺伝学

「コンジェニックとマンモス再生」

————— 庫本 高志 : 23-25

海外散歩

「カンボジア巡礼」 ————— 佐久間 善仁 : 26-28

ラボテック

「熊本大学 CARD、マウス胚の冷蔵輸送の開始」

————— 中潟 直己 : 29-30

海外散歩

「クロアチア・スロヴェニア・北イタリア漫遊記 (2)」

————— 日柳 政彦 : 31-34

わが社のプロフィール

- ・株式会社チャンネルサイエンス
- ・財団法人動物繁殖研究所
- ・オリエンタル酵母工業株式会社
- ・日本チャールス・リバー株式会社
- ・千代田開発株式会社
- ・清水実験材料株式会社

海外技術情報

- ・地上輸送後のハムスターが環境馴化するために要する時間の評価に対するテレメトリーシステムの使用
- ・マウスにおける頻回の血液サンプリングにより得られた血漿の品質評価
- ・床敷の材質および回し車の表面がシリアンハムスターの四肢の創傷に及ぼす影響
- ・健康なヒト被験者及び健康なイヌ、ウサギ、仔ウシの心拍変動に関する比較研究
- ・飼育マウスにおける2種の新規マウスノロウイルス分離株の感染動態、感染性およびゲノムの安定性
- ・ヘリコバクター感染の実験における影響：研究用齧歯類コロニーにおけるヘリコバクター根絶の実例

LA-house

「モニタリング研修の質問」 ————— 高倉 彰 : 40

ほんのひとりごと

学会・技術者協会の動き

協会だより

KAZE ————— 山田 章雄 : 46

No. 38

平成21年 (2009) 10月1日発行

巻頭言

「生命科学と実験動物技術者の役割」 — 吉川 泰弘 : 4-5

特集 マウスノロウイルスの状況と研究

「マウスにおけるマウスノロウイルス感染症」

————— 久和 茂 : 6-8

「わが国の実験用マウスにおけるマウスノロウイルスの

汚染状況」 ————— 後藤 一雄 : 9-13

研究最前線

「遺伝子改変霊長類作出」 ————— 佐々木 えりか : 14-16

トピックス

「現在の動物実験代替法の状況について」

————— 小島 肇夫 : 17-20

海外散歩

「ウルグアイ (モンテビデオ)」 ————— 鍵山 直子 : 21-23

連載シリーズ「LAM 学事始 (1)」

「実験動物医学への招待」 ————— 久原 孝俊 : 25-32

連載記事 (3) 実験動物遺伝学

「リコピナント近交系：色あせないゲノムのモザイク」

————— 庫本 高志 : 33-35

トピックス

「フィリピンにおけるレスタンエボラウイルスのブタ等に与える影響」 ————— 森川 茂 : 36-38

海外散歩

「クロアチア・スロヴェニア・北イタリア漫遊記 (3)」

————— 日柳 政彦 : 39-41

海外技術情報

- ・MFI法によるマウス・ラット感染症の多項目抗体検査

わが社のプロフィール

- ・中部科学資材株式会社
- ・株式会社リバース
- ・株式会社星野試験動物飼育所
- ・北山ラベス株式会社
- ・エルエスジー株式会社
- ・日生研株式会社

学会の動き、技術者協会の動き

協会だより、技術指導員の認定、協会関係団体の動き

KAZE ————— 河野 公雄 : 50

No. 39

平成22年 (2010) 1月1日発行

巻頭言

「新年を迎えて一厳しい時こそ前向きに」

————— 福田 勝洋 : 4

特別寄稿

「牛疫根絶に貢献したウサギ順化牛疫ワクチン：出発点は

動物モデルの作出」 ————— 山内 一也 : 5-9

特集「教育セミナーフォーラム 2009」

「技術指導員の活動と役割」 ————— 畔上 二郎 : 10-11

「1 級技術者の資格と業務」製薬企業安全性研究所での現状

————— 根津 義和 : 12-13

「認定制度に対する企業の取り組みと資格の活用」

————— 橋本 正晴 : 14-15

「認定制度に対する実験動物技術者からの要望」

————— 井上 吉浩 : 16-18

総説

「ノロウイルス研究の現状とマウスノロウイルス研究の有用性」 ————— 片山 和彦 岡智一郎 高木 弘隆 : 20-26

ヘルシンキ宣言のソウル改訂について

————— 中井 伸子 : 27-29

連載シリーズ「LAM学事始(2)」

「第2章 米国の実験動物の使用に関する法律、規則、方針」
池田 卓也・久和 茂：30-32

ラボテック

「実験動物用飲料水としての酸性電解水応用の可能性」
鈴木 政美：33-36

「新水成二酸化塩素製剤殺菌消毒システム〔ピュオロジェン〕による実験動物施設での利用」
岡松 学：37-38

海外技術情報

- ・実験での外科的手技における、げっ歯類への麻酔・鎮痛薬投与
- ・ミニブタの心臓切開手術におけるケタミン-ペントバルビタール麻酔とフェンタニル-ペントバルビタール麻酔の比較
- ・西欧の実験用マウスおよびラットにおける各種ウイルス因子と*Mycoplasma pulmonis*の現在の流行を評価するための血清学的調査
- ・術後疼痛モデルラットにおけるブプレノルフィンの評価
- ・研究施設におけるマウスボックス：マウス抗体産生試験によってマウス血清中におけるエクトロメリアウイルスが陽性検出できなかった一例
- ・実験用マウスおよびラットにおける感染性病原体の現在の有病率

わが社のプロフィール

- ・株式会社イブバイオサイエンス

ほんのひとりごと

学会の動き

技術者協会の動き

平成21年度(第25回)実験動物技術者資格認定試験結果

協会だより、協会関係団体の動き

KAZE 櫻井 康博：46

No. 40

平成22年(2010)4月1日発行

巻頭言

「実験動物としての家畜に対する動物福祉」
山内 一也：4-5

「第57回日本実験動物学会総会を迎えて」
芹川 忠夫：6

特集 1

「二代目機関誌「LABIO21」10年の顛末」
新関 治男：7-9

「LABIO21の創刊10年にあたって」
三枝 順三：10-11

「LABIO21の発刊10年に寄せて」
塩見 雅志：12-13

特別寄稿

「医学研究における実験用霊長類の歴史」
山内 一也：14-17

特集 2

「新型インフルエンザ発生に対する職場の危機管理 -実験動物生産企業-」
池田 卓也：18-20

「新型インフルエンザ発生に対する職場の危機管理 -企業の実験動物施設-」
谷川 学：21-25

海外散歩

「マイルハイシティー・デンバー(米国・コロラド州)あれこれ」
大和田 一雄：26-28

研究最前線

「実験小動物用in vivo イメージングの現状」
竹内 司：30-33

連載シリーズ「LAM学事始(3)」

「第3章 マウスの生物学と病気-ウイルス感染症を中心に-」
久和 茂：34-37

ラボテック

「疼痛管理の実践と実験動物技術者が果たす役割」
渡邊 利彦：38-41

実験動物1級技術者認定試験を受験して

廣瀬 清香：42

実験動物2級技術者試験に合格して

鳴海 妙：43

海外技術情報

- ・単純ヘルペスウイルス1型特異的な免疫反応および樹状細胞の性状に*Helicobacter hepaticus*の感染が与える影響
- ・ヒトとチンパンジー(*Pan troglodytes*)における酸化ストレスおよび心疾患に関するバイオマーカーの比較
- ・ゲッ歯類でのパストレラ科菌検出に用いるPCRプライマーセットの比較
- ・糞便サンプルからのDNA解析：出血性疾患のマウスモデルにおける迅速で確実な非侵襲的サンプリング
- ・マウスの腹部腫瘍モデルにおけるエンドポイント：現行基準の改良
- ・マウスにおけるROSA26-EGFP遺伝子の挿入変異による精子形成異常と雄不妊個体の出現
- ・マウスにおける適切な気管内挿管を確認するための簡便な手法

LA-house

「モニタリング研修の質問」
高倉 彰：46

学会の動き、技術者協会の動き

ほんのひとりごと

協会だより、協会関係団体の動き

KAZE 日柳 政彦：50

No. 41

平成22年(2010)7月1日発行

巻頭言

「社団法人日本実験動物学会の理事長に就任して」
八神 健一：4

「第44回日本実験動物技術者協会総会を迎えて」
清水 範彦：5

動物実験に関する法規制の近未来について

—— 鍵山 直子・浦野 徹・片平 清昭・日柳 政彦・
佐神 文郎・務台 衛・八神 健一：6-10

研究最前線

「幹細胞研究支援体制と山中 iPS 細胞特別プロジェクト」
—— 三枝 順三：11-16

ホットコーナー

「日動協の「実験動物福祉指針等」の改定について」
—— 外尾 亮治：17-18

トピックス

「日動協が出した「実験動物関連請負・派遣に関する宣言」
について」 —— 権橋 明広：19

特別寄稿

「実験用サル由来ウイルス感染の歴史」
—— 山内 一也：20-23

海外散歩

フィリピン「遺骨収集活動に参加して」
—— 山際 大志郎：25-27

特集 教育セミナーフォーラム2010

「新型インフルエンザ病原性の解明における動物実験の重
要性」 —— 中屋 隆明：28-29

「蛍光マイクロビーズ (MFI) 法によるマウス・ラット感染
症の多項目抗体検査」 —— 國田 智・高倉 彰：30-33

連載シリーズ「LAM 学事始 (4)」

「第 3 章 マウスの生物学と病気 (続)」
—— 金井 孝夫：34-37

ラボテック

「ミニブタの有用性」 —— 林 直木：38-40

海外技術情報 1

- ・ 指端切断術を行った新生仔マウスにおける生理学的及び行動学的パラメータの解析
- ・ ニュージーランドホワイト種ウサギの妊娠期における血中因子の変化
- ・ 実験用ウサギ (*Oryctolagus cuniculus*) における *Clostridium piliforme* 感染の有効な診断法の評価
- ・ 実験用ラットの食餌嗜好性を利用したブプレノルフィン混餌投与による抗侵害受容作用に及ぼす影響
- ・ カニクイザル (*Macaca fascicularis*) コロニーにおけるサルベータレトロウイルス感染

学会の動き 技術者協会の動き

ほんのひとりごと

協会だより、協会関係団体の動き、お詫び

KAZE —— 川本 英一：46

「動物実験実施施設の第三者評価を受けて」

—— 佐神 文郎：12-15

オピニオン

「実験動物の福祉に関する第三者評価システムに望むこと」
—— 山田 靖子：16-18

トピックス

「口蹄疫はどのような疾病か」 —— 小河 孝：20-23

研究最前線

「マウス肝炎ウイルス (MHV) に対する抵抗性に関する
研究」 —— 田口 文広・平井 (結城) 明香：24-27

私の研究

「レストン・エボラウイルスを追って—フィリピンでのコ
ウモリ捕獲—」

—— 吉川 泰弘 Joseph Masangkay：28-31

ラボテック

「新マウス・ラット微生物検査項目セットの設定と日動協
メニュー」 —— 高倉 彰：32-34

連載シリーズ「LAM 学事始 (5)」

「第 3 章 マウスの生物学と病気 (続)」
—— 池田 卓也 金井 孝夫：35-37

海外散歩

「ボストンでの 9 年間」 —— 日柳 章彦：38-40

海外技術情報

- ・ 顔の表情によるマウスの苦痛の評価
- ・ C57BL/6 マウスにおける *Pasteurella pneumotropica* 接種によるサイトカイン遺伝子の発現変動
- ・ L-グルタミン添加精子凍結保存液とメチル- β -シクロデキストリン添加精子前培養液の組合せは C57BL/6J マウスの凍結保存精子において高受精率をもたらす
- ・ マウスに対するハムスターパルボウイルスの実験感染：マウスパルボウイルス 3 の種間伝播の証拠
- ・ C57BL/6 マウス新生仔における個体識別法：発育および行動学的な評価
- ・ 個別換気式ケージで飼育されたラットにおいて、ポプラ製構造物と制限給餌が活動性、血圧、心拍数、糞便中へのコルチコステロン及び免疫グロブリン A の排出に及ぼす影響
- ・ プロポフォル-セボフルラン麻酔法のニュージーランドホワイト (NZW) ウサギへの適用

学会の動き、技術者協会の動き

ほんのひとりごと

協会だより、協会関係団体の動き

KAZE —— 大島 誠之助：46

NO. 42

平成22年 (2010) 10月1日発行

巻頭言

「安東・田嶋賞を受賞して」 —— 鳥居 隆三：4-5

特 集 実験動物福祉に関する第三者評価を受けて

「社内動物福祉活動の経過」 —— 権田 俊彦：6-8

「大学等における動物実験に関する相互検証を受けて」
—— 喜多 正和：9-11

NO. 43

平成23年 (2011) 1月1日発行

巻頭言

「卯年にちなんだウサギに思いを馳せる」

—— 日柳 政彦：4-5

「動物の愛護及び管理に関する法律」の見直しに意見する

—— 鍵山 直子：6-8

トピックス

「OIEの実験動物福祉綱領」

黒澤 努：9-12

動物実験福祉に関する第三者評価を受けて

橋本 道子・小山 公成・櫻井 康博・
藤本 芳勝：13-15

ホットコーナー

「家畜改良センター茨城牧場における実験用小型ブタ（3系統）の完成について」

齊藤 政宏：16-17

米国における実験動物関係者の賃金実態調査（2010）の紹介

大和田 一雄：18-21

ラボテック①

「サルを用いた PET 画像診断」

三好 荘介・伏木 洋司：23-25

ラボテック②

「サル類における PET の応用」

塚田 秀夫：26-28

連載シリーズ「実験動物産業に貢献した人々（1）」

・安東 洪次
・田嶋 嘉雄

海外散歩

「OIE 訪問とパリ散策」

大島 誠之助：31-33

連載シリーズ「LAM 学事始（6）」

「第 32 章 実験動物の行動（1）」

久原 孝俊：34-37

連載シリーズ「マイホビー」（1）」

「ナツメのウサギ」

夏目 克彦：36

海外技術情報

- ・アカゲザル (*Macaca mulatta*) における重度外傷受傷後の死亡予測因子としての血中乳酸塩濃度、塩基過剰、重炭酸塩濃度および pH の評価
- ・食餌性肥満・インスリン抵抗性モデルマウスにおけるマウスノロウイルス感染の影響
- ・飼育環境における騒音はウイスターラット胎仔へのグルココルチコイド暴露実験の結果に影響を及ぼす
- ・代謝ケージ馴化後の C3H、BALB/c、C57BL/6J マウスにおける正常血漿値および 24 時間尿の生化学検査基準範囲の確立
- ・豚（ランドレース/ラージホワイト交雑種）におけるプロポフォルレーレミフェンタニル投与による麻酔導入法
- ・マウスの消化管表面積の評価：マウス経口投与量のヒトへの外挿における必要データ

学会の動き、技術者協会の動き

ほんのひとりごと

平成 22 年度 実験動物技術者資格認定試験結果

協会だより、協会関係団体の動き

KAZE 大和田 一雄：46

NO. 44

平成 23 年（2011）4 月 1 日発行

巻頭言

「第 58 回日本実験動物学会総会を迎えて」

米川 博通：4

トピックス

「ILAR の指針 2011 年版改訂 一特に改訂部分の解説」

黒澤 努：5-10

ニホンザルの流行性血小板減少症について

吉川 泰弘：11-15

ラボテック

「理研・脳科学総合研究センターの新動物実験施設の概要と特質」

板倉 智敏・高橋 英機・榎田 章三：16-18

ホットコーナー

「微生物モニタリング日動協メニューの改訂」

高倉 彰：19-21

連載シリーズ「実験動物産業に貢献した人々（2）」

・野村 達次
・今道 友則
・倉益 茂實
・土川 清

連載シリーズ「LAM 学事始（7）」

「第 32 章 実験動物の行動（2）」

久原 孝俊：24-30

海外散歩

「台湾」

椎橋 明広：31-33

資料「実験動物関連請負・派遣に関する宣言」Q&A 集

連載シリーズ「マイホビー」（2）」

「アジアのウサギ・月面のウサギ」

夏目 克彦：43

実験動物 1 級技術者試験に合格して

山下 陽子：44

実験動物 2 級技術者試験を終えて

吉永 理沙：45

海外技術情報

- ・暗期における照明暴露はラットにおいて血漿中の内分泌生理と代謝に関する概日リズムを攪乱する
- ・SD ラットでは左心室肥大が好発する
- ・実験用マウスにおける腸内細菌叢の差異は遺伝的要因及び環境的要因に起因する

学会の動き

技術者協会の動き

協会だより、認定トピックス、協会関係団体の動き

KAZE 林 直木：50

NO. 45

平成 23 年（2011）7 月 1 日発行

巻頭言

「第 45 回日本実験動物技術者協会総会を迎えて」

高橋 智輝：4

特集「実験動物教育・認定関連」

「実験動物技術者認定制度の現状と展望

—この 10 年における主な改正点を中心に—

大和田 一雄：5-9

「実験動物技術者認定制度の一部が変わります」

（社）日本実験動物協会：10

「実験動物技術者認定試験の関連データあれこれ」
————— (社) 日本実験動物協会事務局 : 11-13

トピックス

「日動協：第2期実験動物生産施設等福祉調査・評価事業の
中間まとめ」 ————— 佐藤 浩 : 14-17

ラボテック①

「新研究所の概要について—実験動物中央研究所—」
————— 野村 龍太 : 19-20

実験動物の微生物学的な品質管理とモニタリング—その
有用性と限界 ————— 高倉 彰 : 21-23

連載シリーズ「LAM 学事始 (8)」

「第29章 動物実験成績を修飾する要因 (1)」
————— 久和 茂 : 24-29

ダバオコウモリ調査報告

————— 吉川 泰弘・Joseph S. Masangkay
Roberto P. Puentespina : 30-33

ラボテック②

「環境エンリッチメント雑感」 ————— 富田 久志 : 34-36

連載シリーズ「マイホビー」(3)

「欧米のウサギ」 ————— 夏目 克彦 : 37

連載シリーズ「実験動物産業に貢献した人々 (3)」

- ・鈴木 潔
- ・今泉 潔
- ・近藤 恭司
- ・仲川 憲一
- ・土倉 儀一

ほんのひとりごと

海外技術情報

- ・ Myelin-Deficient (*md*) ラットにおける人道的エンド
ポイント
- ・ 神経毒性研究における麻酔薬の使用に対するの考察
- ・ セルフゲートMRI法と高周波心エコー検査法を用いたマ
ウス左心室機能評価の比較
- ・ シリアンハムスターでは繁殖方法が子孫の雌雄比に影響
を及ぼす
- ・ ラット呼吸器ウイルスが原因と考えられてきた肺病変は
Pneumocystis carinii感染によって引き起こされる
- ・ UVB照射によるHaCaT細胞の傷害およびSKH1 マウス
における皮膚癌発生に対するイノシトール6リン酸の保
護作用

学会の動き、技術者協会の動き

協会だより、協会関係団体の動き

KAZE ————— 椎橋 明広 : 46

NO. 46

平成23年 (2011) 10月1日発行

巻頭言

「公益認定申請に向けて」 ————— 福田 勝洋 : 4-5

トピックス

「ICLAS 総会報告—イスタンブール」
—日動協代表が ICLAS 副会長に選出されました—
————— 鍵山 直子 : 6-8

特集 1「3.11 東日本大震災」

「動物実験施設の被害状況と対応—東北大学大学院医学系
研究科—」 ————— 笠井 憲雪 : 9-12

「動物実験研究施設の被害状況と対応
—福島県立医科大学—」 ————— 片平 清昭 : 13-17

海外散歩

「アメリカ西海岸の旅」 ————— 前 理雄 : 18-21

特集 2「ミニブタ」

「ミニブタ (実験用小型ブタ) の開発経緯と今後の課題」
————— 矢澤 肇 : 23-27

「国立循環器病研究センターにおけるミニブタの使用状況」
————— 塩谷 恭子 : 28-30

連載シリーズ「LAM 学事始 (9)」

「第29章 動物実験成績を修飾する要因 (2)」
————— 久和 茂 : 31-34

ラボテック

自動給水装置「オスモ・ピュアガード」
————— 平井 克治 : 35-37

連載シリーズ「マイホビー」(4)

「変わった素材のウサギ」 ————— 夏目 克彦 : 38

連載シリーズ「実験動物産業に貢献した人々 (4)」

- ・中川 雅郎
- ・鈴木 善雄

ほんのひとりごと

海外技術情報

- ・ 一般的に用いられる実験動物における骨の比較解剖学：
創薬探索への意義
- ・ ラットの外科手術時に起こる外部加熱装置による不慮の
腎臓損傷
- ・ マウスにおけるケージ交換間隔に関する嗜好性
- ・ 雄SDラットにおける短期間絶食による影響
- ・ 個別換気ケージにおける床敷清掃方法が繁殖成績に与え
る影響
- ・ 飼育ケージや環境エンリッチメントが成熟ベルベットモ
ンキー (*Chlorocebus aethiops*) の常同行動へ及ぼす影響

資料「実験動物の年間 (平成22年度) 総販売数調査」

学会の動き、技術者協会の動き

協会だより、指導員の認定、協会関係団体の動き

KAZE ————— 久原 孝俊 : 46

NO. 47

平成24年 (2012) 1月1日発行

巻頭言

「新春を迎えて」 ————— 外尾 亮治 : 4-5

特集「3.11 東日本大震災」

「実験動物施設の被害状況と対応—日本チャールス・リ
バー(株)—」 ————— 池田 卓也・高木 一明・齒黒 重樹 : 6-9

「東日本大震災への対応－製薬企業研究所の事例－」

——— 小山 公成・藤本 芳勝・櫻井 康博：10-13

トピックス

「牛疫根絶と日本人科学者」 ——— 山内 一也：14-16

ICLAS執行役員会・理事会およびAALAS年次総会出張報告 ——— 鍵山 直子：18-20

SCAW IACUC Training Workshop に参加して ——— 大和田 一雄：21-23

CIOMSの医学生物学領域の動物実験に関する国際原則の改訂について ——— 笠井 憲雪：24-26
連載シリーズ「実験動物産業に貢献した人々（5）」

- ・梶原 暲
- ・佐藤 隆一、佐藤 節子
- ・大場 俊雄
- ・永井 康豊

連載シリーズ「LAM学事始（10）」

「第 30 章 生物医学研究における動物モデル（1）」 ——— 金井 孝夫：30-34

ラボテック

「新規抗ウイルス技術 Cufitec®（キュフィテック）とその応用製品」 ——— 藤森 良枝：35-37

海外技術情報

- ・環境エンリッチメントとしての巣作り用のティッシュペーパーはマウス喘息モデルの実験結果を変動させる
- ・Crl：CD（SD）ラットにおける乾燥血液スポット法を用いた血中薬物濃度測定に採血部位および採取方法が与える影響の検討
- ・アカゲザルにおける四肢遠位部限局性で広範囲な心因性脱毛
- ・ヒトアデノウイルスのマウスにおける感染性持続期間
- ・細菌誘導性大腸癌マウスモデルにおけるマウスノロウイルス感染の非影響性
- ・医薬品開発における乾燥血液スポットの利用：DiLab® AccuSampler®の改良による自動乾燥血液スポット試料作製

ほんのひとりごと

学会の動き、技術者協会の動き

日動協の研修会はサル類の研修会が増え、一部変わりました

平成23年度実験動物技術者資格認定試験結果

協会だより、協会関係団体の動き、新刊紹介

KAZE ——— 新聞 治男：46

NO. 48

平成24年（2012）4月1日発行

巻頭言

「日本実験動物科学・技術九州2012の集いへのお誘い」

——— 浦野 徹：4-5

トピックス

「公益社団法人認定と対応」 ——— 前 理雄：6-9

「動物愛護管理法の改正が指すもの」 ——— 林 良博：10-11

特集 1 教育セミナー フォーラム'12

「震災と原発事故に学ぶ」

「実験動物施設における危機管理－国内外の取組みと今後の方向性－」 ——— 重茂 浩美：12-13

「低線量率放射線が生体に与える影響の評価－動物実験の重要な役割－」 ——— 田中 聡：14-16

「低線量被ばくによる発達期への生体影響」 ——— 島田 義也：17-19

海外散歩

「ネパール」 ——— 山田 靖子：21-25

特集 2 環境エンリッチメント

「ガイドや北米の企業での取り組み事例からみるエンリッチメントとその運用」 ——— 池田 卓也：26-29

「大型実験動物飼養管理への動物愛護と環境エンリッチメント」 — 田中 穂積・船戸 護・寺師 隆文・日高 隆一・山下 宏昭・下假 賢二・宮本 真二・和泉博之：30-34

連載シリーズ「実験動物産業に貢献した人々（6）」

- ・佐藤 善一
- ・山内 忠平
- ・中野 健司
- ・本庄 重男
- ・堀内 茂友
- ・富永 聡

海外技術情報

- ・実験動物施設におけるラジオ放送の音声に対してラットはどのように反応しているのか？
- ・環境エンリッチメントのための玩具設置によるラットの単独飼育における動物福祉指標の変化
- ・テレメトリー移植ラットの網底ケージでの飼育が心拍数、活動性および体温に与える影響
- ・ドイツのペットショップで購入したマウスにおける微生物の感染状況
- ・実験用げっ歯類の環境エンリッチメント
- ・感染症研究におけるマウスの死の転帰を予測する指標

実験動物1級技術者試験を終えて ——— 小泉 美穂：40

実験動物1級技術者試験を受験して ——— 石原 由夏：41

ほんのひとりごと

学会の動き、技術者協会の動き

特例認定校が増えました

協会だより、協会関係団体の動き

新刊紹介

KAZE ——— 山田 章雄：46

Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 37
APR. 2009

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

【特集】
 「教育セミナーフォーラム2009」



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 38
OCT. 2009

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

【特集】
 「マウスノロウイルスの状況と研究」
 【研究報告】
 「遺伝子改変室長機作組」



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 39
OCT. 2009

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

【特集】
 「牛疫菌に感染したウサギ由来牛疫ワクチン」
 【特集】
 「教育セミナーフォーラム2009」



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 40
APR. 2010

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

創刊10周年記念号
 「新型インフルエンザ発生に対する職場の危機管理」
 「疫学研究における実験用霊長類の歴史」



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 41
OCT. 2010

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

「動物実験に関する法規制の近未来について」
 【研究報告】 幹細胞研究支援体制と山中iPS細胞特許プロジェクト



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 42
OCT. 2010

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

「実験動物福祉に関する第三者評価を受けて」
 「実験動物の福祉に関する第三者評価システムに關むこと」
 「レストン・エボラウイルスを讀って」



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 43
APR. 2011

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

「動物の愛護及び管理に関する法律」の見直しに見る
 「OIEの実験動物福祉綱領」



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 44
APR. 2011

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

「ILARの指針2011年版改訂 一特一特改訂部分の解説」
 「微生物モニタリングの自動値メニューの改訂」
 資料「実験動物関連語彙・派遣に関する宣言」 Q&A集



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 45
OCT. 2011

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

「実験動物教育・認定関連」
 「実験動物の微生物学的な品質管理とモニタリング」



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 46
OCT. 2011

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

【トピックス】
 「自動協代表がCLAS副会長に選出されました」
 【特集】
 「第11回日本大会」
 【特集】
 「ミニブタ」



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 47
APR. 2012

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

【特集】
 「第11回日本大会」
 【トピックス】
 「牛疫菌と日本人科学者」



Japanese Society for Laboratory Animal Research
LABIO 21 48
APR. 2012

◆ 財団法人実験動物協会 TEL: 03-6743-0202 FAX: 03-6743-0203
<http://www.labio.or.jp/> E-Mail: labio@labio.or.jp

【トピックス】
 「公益社団法人認定と対応」
 【特集】
 「教育セミナーフォーラム110」
 「読者と読者奉仕に学ぶ」



